

花ちゃん、オー君、モンツキ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成27年2月17日 NO.86 (186)



ジョウビタキ「ちょっと後ろ向きでごめんなさい！わたしがジョウビタキです。」

オー君 「オレンジと白と銀色できれいな鳥ですね。」

ジョウビタキ「そんなにほめてもらってうれしいね。」

花ちゃん 「ジョウビタキは冬鳥ですね。」

ジョウビタキ「そうだよ。平地や低山、住宅地、公園、河原などあちこちにいるんだ。

この前は、ちよいと国立七小のうら庭に遊びにいったんだ。」

オー君 「ジョウビタキって、何だかちよいとむずかしい名前ですね。」

ジョウビタキ「そんなことないよ。ジョウとは、「尉」で銀髪のことなんだ。ヒタキというのは、「火焚」で、火打石をたたく音に似た声を出すことから、この名前になったということさ。」

花ちゃん 「そうなんですか。わたし、初めて知りました。白い斑点もようもおしゃれな感じですね。」

ジョウビタキ「そうだろう。この斑点を着物の紋に見立てて、モンツキドリなんて呼ぶ地域もあるそうなんだ。」



- オー君 「あ！これはよく見^みかけるカルガモですね。」
- 花ちゃん 「そのとおり。よく見^みかけるのも当然^{とうぜん}で、一年^{いちねん}中^{じゅう}日本^{にほん}にいるカモはこのカルガモだけです。」
- オー君 「そういえば、この前^{まえ}の全校朝会^{ぜんこうちょうかい}で校長先生^{こうちょうせんせい}が、カルガモは漢字^{かんじ}で『夏留ガモ』と書^かいて、夏^{なつ}も日本^{にほん}に留^{とど}まるという意味^{いみ}だと教^{おし}えてくれました。」
- 花ちゃん 「ほとんどのカモは冬鳥^{ふゆどり}だけど、このカルガモみたいに一年^{いちねん}中^{じゅう}日本^{にほん}にいる鳥^{とり}を留^{りゅう}鳥^{ちょう}というそうよ。」
- オー君 「ふーん。そうなんだ。いろいろと勉強^{べんきょう}になるね。ところで、カルガモはいつもどんなものを食^たべるのですか。」
- カルガモ 「そうだね。水面^{すいめん}を泳^{およ}ぎながら、水草^{みずくさ}や水辺^{みずべ}の草^{くさ}の実^みなどをよくついで食^たべているよ。」
- 花ちゃん 「カルガモはあちこちの川^{かわ}や池^{いけ}などにふつうに見^みられるカモですね。わたし、カモのタマゴを見^みつけたことがあるもん。」
- カルガモ 「そうだね。タマゴがかえって、6月^{じゅう}～7月^{しちがつ}ころに、かわいいヒナを連^つれて歩^{ある}いている様子^{ようす}がニュースなどで報^{ほう}じられたこともよくあるんだ。」
- オー君 「カルガモの大き^{おお}な特^{とく}徴^{ちょう}って、何^{なん}なんですか。」
- カルガモ 「ちょっと口^{くち}ばしが黄^{きいろ}色^{いろ}いんだ。羽^{はね}の色^{いろ}はオスメスあまりちがいがいいね。」